

平成29年度

学習と評価の手引き

2年生

京都市立太秦中学校

～目次～

家庭学習について まとめテスト前の学習のポイント 評価・評定について

国語

社会

数学

理科

音楽

美術

保健体育

技術家庭

英語

年間学習内容

家庭学習について

1. 毎日欠かさず家庭学習に取り組みましょう

太秦中学校では、毎日A4サイズの家庭学習課題プリントが1枚程度出されています。(国・社・数・理・英の5教科です。)毎日家で取り組み、翌朝提出して下さい。点検を受け返却されたプリントは家庭学習ファイルに綴じて管理しましょう。まとめテストの学習にも役立てて下さい。また、課題プリントだけにとどまらず、自主勉強もすすめられるとさらにいいですね。

2. 日々の学習は復習に重点を

①ノート・ワークシートの完成と整理

ノートやワークシートは黑板の内容を写すだけでなく、大切なことをメモしたり自分なりの工夫を付け加えたりして、学習の参考書となるようにしましょう。単元(学習内容のまとめ)ごとに整理して、まとめ直すことで理解が深まります。

②基本事項をしっかり覚えよう

重要語句・漢字・地名・年号・公式・法則・英単語・用具の名称などの学習の基礎となる知識は正確に覚えるようにしましょう。確実に覚えるには単語カードを活用したりノートに一问一答式でまとめなおしたりするのも有効です。

③問題を解く

教科書の練習問題や章末問題、副教材の問題集、授業で配られた問題プリントなどで練習問題に取り組み、「自分の間違い方」を知りましょう。問題を解くことで間違った理解の仕方に気付いたり、自分の弱点を知ったり、学習を効果的に進めることができます。

～効果的な復習とは～

・基礎からレベルアップしていく

いきなり高度なことから手をつけるよりも、基礎・基本を身に付けてから少しずつレベルアップしていった方が結果的には早く学習内容を習得できます。「急がば回れ」がポイントです。

・復習は繰り返し行う

復習は、授業を受けた日・単元の区切り・まとめテストの前・・・というふうに繰り返し何度も行うことで効果が高まります。学んだことはテスト直前まで放置せず、定期的に問題集に取り組むなどして定着させましょう。

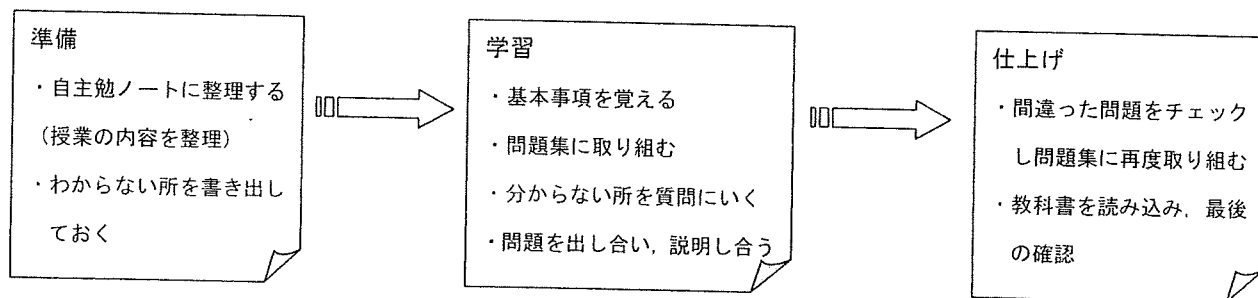
・五感をフル活用する

例えば、漢字や英単語を覚える時、ただ目で見て読んで覚えようとしてもなかなか頭に入りません。必ず手を動かして書き、声に出して読む、というようにして覚えましょう。視覚だけでなく触覚・聴覚など五感をフル活用することで記憶が強化されます。

まとめテスト前の学習のポイント

1. しっかりとした学習計画をたてよう

部活動が停止になる1週間前あらテスト勉強では、十分とは言えません。2週間前を目安に学習計画を立てましょう。2週間で以下のように三段階に分けて取り組むと効果的です。



毎日の学習についてタイムスケジュールを事前にしっかりと組むことで「この教科に何時間取り組めるか」ということがハッキリと分かり、学習を進めやすくなります。

2. 課外学習会を利用しよう

まとめテスト前に課外学習会が開かれます。原則として自学自習の形式で行いますが、学習内容に関して分からないところがあれば質問することもできます。参加の際は学習に必要な教科書や問題集などを忘れないようにしましょう。「自宅では集中して学習ができない。」「家ではついテレビを見たりゲームをしたりしてしまう。」といったタイプの人には特におすすめします。

3. 学習環境や体のコンディションに気を配ろう

学習の邪魔になるもの(ゲームやマンガなど)は遠ざけ、集中して学習できる環境をつくりましょう。あらかじめ決めた時間の勉強をやりきるため、時計を目に付くところに置くなどしてもよいでしょう。また、栄養・睡眠をしっかりと取り、夜更かしや徹夜での勉強はしないようにしましょう。人間の脳は、昼間に得た情報や記憶を夜、寝ている間に整理し、必要と判断したものだけを保管するという性質があるそうです。テスト前でもしっかり睡眠時間を取るようにしましょう。

評価・評定について

太秦中学校では、年に5回のまとめテストが実施されます。(5, 6, 10, 11月と3年生は1月, 1・2年生は2月に実施予定) 通知表は年度末の3月に渡されます。夏休み前・冬休み前には三者懇談が予定されており、懇談資料としてその時点での評価・評定が出されます。区切りごとに自分の成績を把握し、年度末の自分の成績アップにつながるよう学習の励みにして下さい。

観点別学習状況の評価（目標に準拠した評価）

各教科の目標に基づいて設定された観点について、その達成状況进行评估してあります。

A：十分満足できる B：おおむね満足できる C：努力を要する

評定（目標に準拠した評価）

各教科の観点別学習状況の評価に基づいて、それを総括して評価してあります。

5：十分満足できるもののうち、特に程度の高いもの

4：十分満足できるもの

3：おおむね満足できるもの

2：努力を要するもの

1：一層努力を要するもの

*総合的な学習の時間の評価は、1年間の取り組みを総括して年度末の通知表に文章表記します。

*道徳の評価は、道徳の時間に何を学ぶことができたかを、学期ごとに文章表記します。

*育成学級の評価については、個々の生徒の発達の程度を考慮した上で目標を設定し、どの程度その目標に到達したかを評価し、文章表記します。

2年 国語科

1. 学習のアドバイス

・国語科の授業で学習すること

「読む」「聞く」…他者の述べていることを正確に理解して自分の中に取り入れる。

「書く」「話す」…自分のいいたいこと・感じていることを他者に正確に理解してもらう。

書写においては、日本語を美しく書く。

「知る」…漢字、文法、語句などを学び、適切に使えるようになる。

「感じる」「考える」…全ての学習の基本になるので、多くのことを感じ、考え、心と感性を豊かにしていこう。

◆ 2年生は、1年での学習を基礎とし、さらに多くの種類の書物にふれて読書量を増やしていこう。

・国語科の学習方法

予習	・学習しているところを読む。わからない漢字、語句などは調べておく。 ・読んでわからないところ、疑問に思ったところなどをノートにメモしておく。
授業	・プリント、課題などにしっかり取り組む。 ・黒板に書かれた内容をしっかりとノートに書く。ノートはいろいろと工夫しよう。黒板に書かれない内容でも重要なことはノートにさっとメモしよう。 ・「予習」の際のメモの内容を解決しよう。 ・スピーチなどの活動には積極的に取り組もう。 ・文章を書くときは、常に読む手に伝わるかを意識しよう。 - また、人の書いた文章のいいところは積極的に取り入れよう。
復習	・その日の学習内容をノートを見ながら振り返り、授業内容をしっかりと理解する。 ・漢字や語句などは自主勉強で身につけよう。
テスト前	・テストで出題される内容は、授業でやったことがほとんどのため、ノートやプリントを見直してポイントをまとめておこう。また、教科書を何度も読んでおこう。漢字や語句、文法に関する内容は何度もやり直そう。繰り返し学習して理解を深めよう。
テスト後	・問題用紙、解答用紙、模範解答などをしっかりと保管しておこう。必要であれば何度もやり直そう。なぜ自分が間違えたのかを理解して、次のステップに進もう。
その他	・提出物は必ず期限を守って出すこと。 ・朝読書の時間だけではなく、自分で時間を見つけて読書进行しよう。その際同じようなジャンルに偏ることなく、古今東西のいろいろな種類の本を読もう。 ・国語で学習する内容は日本の文化とも大きな関係があるので、学習以外でもいろいろな知識を常に吸収しよう。

2. 観点別評価の各観点の意味と評価方法

観点Ⅰ…「国語への関心・意欲・態度」（国語に対する関心を深め、国語を尊重し、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。）

評価項目	◇ノート ◇授業中の様子 ◇宿題 ◇提出物 ◇発表 ◇テスト
------	--------------------------------

観点Ⅱ…「話す・聞く能力」(自分の考えを豊かにしたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話せたり的確に聞き取れたりする。)	
評価項目	◇表現 ◇グループでの話し合い ◇発表 ◇聞き取りテスト 等
観点Ⅲ…「書く能力」(自分の考えを豊かにしたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書ける。)	
評価項目	◇定期テスト ◇作文 ◇ノート ◇ワークシート 等
観点Ⅳ…「読む能力」(目的に応じて様々な文章を的確に読み取れたり読書に親しんだりすることができる。)	
評価項目	◇定期テスト ◇ノート ◇ワークシート 等
観点Ⅴ…「言語についての知識・理解・技能」(表現と理解に役立てるための音声、語句、語彙、文法、漢字等について理解し、知識を身に付けている。書写では、文字を正しく整えて速く書ける。)	
評価項目	◇定期テスト ◇書写 ◇小テスト ◇作文 等

2年 社会科

1. 学習のアドバイス

・社会科の授業で学習すること

2年生の社会科では、中世・近世・近代史（歴史的分野）と、世界と比較した日本・日本の諸地域について（地理的分野）学びます。広い視野を持って、様々な情報から必要な情報を読み取り、自分で考える…そんな学習をしていきましょう。

・社会科の学習方法

予習	教科書を事前に読んで、分からない語句が出てきた場合は色をつけておく。授業で意味をチェックできるように。
授業	始まる前にノート、ファイル、教科書を準備。集中して先生や他のクラスメイトの話を聞く。ノートやプリントにはどんどんメモをとっていく。質問や、疑問など、挙手をして発言する。授業の最後のまとめは自分の言葉で、わかったことを説明する。
復習	その日習ったこと、分かったことをその日のうちに確認、整理し理解するよう心がける。
テスト前	まずは教科書の範囲をしっかりと読み込む。語句だけを覚えるのではなく、物事のつながりをつかむことを意識する。問題を出し合う場合は「〇〇について説明して。」「〇〇はどういうものか。」という問題を出し合う。
テスト後	テストは必ず残しておく。もう一度最初から解いてみて、それでも分からなかったところは苦手なところなので、教科書やノート、プリントで確認する。
その他	重要語句を基礎知識として、覚えることは必ず必要。しかし、覚えた重要語句の意味や、なぜその制度が必要なのか…などは覚えるではなく、理解。そしてそれを、自分の言葉で表現することができるということ大事なことです。「社会科＝暗記」ではない。

2. 観点別評価の各観点の意味と評価方法

観点Ⅰ…社会的事象への関心・意欲・態度（学習への取り組みの姿勢を評価します。）	
評価項目	◇提出物 ◇授業でのようす ◇宿題
観点Ⅱ…社会的な思考・判断・表現（与えられた情報をまとめたり、説明したりする力を評価します。）	
評価項目	◇まとめテスト ◇レポート
観点Ⅲ…資料活用の技能（資料を読み取り、利用する力を評価します。）	
評価項目	◇まとめテスト ◇ワークシート
観点Ⅳ…社会的事象についての知識・理解（重要語句の名前や意味を覚えられているかを評価します。）	
評価項目	◇まとめテスト ◇小テスト

2年数学科

1. 学習のアドバイス

・数学科の授業で学習すること

- ① 数量や図形に関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得する。
- ② 事象を数理的に考察し表現する能力を高める。
- ③ 数学的活動の楽しさや数学の良さを実感する。
- ④ ①～③を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

・数学科の学習方法

予習	次の授業でどんな内容を学習するのかを確認しておきましょう。確認で構いません。
授業	❖ 黒板に書かれている内容をノートにまとめ、できれば口頭で説明した部分についてもメモしておきましょう。 ❖ 各自で問題を解くときには自分でじっくり考える時間を大切にしましょう。
復習	❖ その日に習った内容を計算用紙などに再度解いて確認しましょう。 ❖ 確認後は、教科書、プリントなどを十分に活用しつつ、問題集にしっかり取り組みましょう。
テスト前	❖ テスト範囲の教科書、ノート、プリントを活用して、学習内容をしっかりふり返りましょう。 ❖ ふり返りが終われば、問題集をくり返し、くり返し何度も復習しましょう。（特に、間違えた問題と何となく正解した問題について重点的に）
テスト後	❖ 問題用紙、解答用紙を3年間保存しておきましょう。しっかり保存できれば、入試勉強の時、自分の到達度を確認するのに役立ちます。 ❖ テストが返却されたら次の時間の授業までに、間違えたところをしっかりと復習し、次回ではできるようにしておきましょう。
その他	❖ とにかく、数学は良い問題に数多くふれることが大切です。解けば解くほど、数学の力は必ずついていきます。 ❖ 予習よりも復習の方が大切です。授業を受けた後にどれだけ多くの種類の問題に触れることができるかが重要です。（そのために問題集を徹底的に活用しましょう。）

2. 観点別評価の各観点の意味と評価方法

観点Ⅰ …「数学への関心・意欲・態度」（数学的な事象に関心をもつとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を活用して考えたり判断したりしようとする。）	
評価項目	◇提出物 ◇授業での様子 ◇レポートやリピートの取組内容
観点Ⅱ …「数学的な見方や考え方」（事象を数学的にとらえて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。）	
評価項目	◇まとめテスト ◇ノート・プリント
観点Ⅲ …「数学的な技能」（事象を数量や図形などで数学的に表現し処理する技能を身に付けている。）	
評価項目	◇まとめテスト ◇小テスト
観点Ⅳ …「数学的な知識・理解」（数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付けている。）	
評価項目	◇まとめテスト ◇小テスト

2年 理科

1. 学習のアドバイス

・理科の授業で学習すること

2年生の理科では、化学変化と原子・分子（化学分野）・動物の生活と生物の進化（生物分野）・電流とその利用（物理分野）・気象のしくみと天気の変化（地学分野）について学びます。理科は苦手な分野もあれば、得意な分野もあります。自然の中からいろいろな法則や知識を得ることで、生きていく上で有用なこともあり、正しい判断を行うことにもつながります。正しく理解し、判断したり、表現したりする力を理科を通して身につけましょう。

・理科の学習方法

予習	教科書を一度読んでおくと、中身やその説明がより分かりやすいはず。分からないことは放っておかず、調べる癖をつけると身につくことも多くなります。 特に、実験・観察の目的や方法は事前に良く理解して行うようにしましょう。
授業	プリントを使って行います。大切な話や板書することをノートに写しておく。実験や観察をする時には、重要なポイントや注意点・操作方法を理解しておく。 実験・観察の結果を分析して、わかったことをその理由とともに、自分のことばで説明できるようにしましょう。
復習	授業プリントやノートを見直す。プリントやノートの内容を人に説明するとより記憶に残ります。重要語句をまとめておくと、テスト前に助かります。
テスト前	問題集を使って、各単元の基礎問題から、応用問題まで何回も解きましょう。分からないものは回答の解説を見たり、分かる人に聞いて理解したりが大切です。
テスト後	テストはファイリングして保存しておく。間違えた問題の直し直しをしておく。
その他	理科は全部分かるようになるより、好きな分野を深めて行って、余裕をもって、苦手分野に取り掛かろう。苦手分野は、よく分かっている人に教えてもらったり、コツを聞いたりするのもいいかもしれません。

2. 観点別評価の各観点の意味と評価方法

観点Ⅰ…自然事象への意欲・関心・態度（学習への取り組みの姿勢を評価します。）	
評価項目	◇提出物 ◇授業での様子 ◇レポート
観点Ⅱ…科学的な思考・表現（与えられた情報をまとめたり、説明したりする力を評価します。）	
評価項目	◇まとめテスト ◇実験プリント ◇レポート
観点Ⅲ…観察・実験の技能（観察や実験の際の器具の使い方・方法・行動について評価します。）	
評価項目	◇まとめテスト ◇小テスト ◇実験プリント ◇観察・実験の様子
観点Ⅳ…自然事象についての知識・理解（重要語句や意味がわかっているかを評価します。）	
評価項目	◇まとめテスト ◇小テスト

2年 音楽科

1. 学習のアドバイス

- ・ 科の授業で学習すること
- ・ 科の学習方法

予習	学習する楽曲や、作曲者など調べておく
授業	「音楽を楽しむ心」を持って入室し一生懸命その日の内容に取り組むこと
復習	新しく覚えたことなど歌やリコーダーで確認して覚える。
テスト前	授業で出されたプリント、教科書に書き込んだことなど確認しておく。
テスト後	振り返りを大切にし、間違いは確実に理解できるようにしておく。 テストに関する資料は大切に保存しておこう
その他	実技テストは自分の力がしっかり発揮できるようまた、さらに曲想を生かして表現できるよう日頃からよく歌い、リコーダーは練習してください。

2. 観点別評価の各観点の意味と評価方法

観点Ⅰ… 音楽への関心・意欲・態度	
評価項目	◇「演奏するとき」「話を聞くととき」「鑑賞するとき」それぞれの学習場面に対してけじめをつけ関心を持って意欲的に取り組むことができる。◇観点Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの基準に意欲的に取り組み、それぞれの目標をクリアしている。 評価方法：まとめテスト1、3、・授業での様子・学習プリント・実技テスト・振り返りシート
観点Ⅱ… 音楽表現の創意工夫	
評価項目	◇音楽表現に必要な基本的な事項（速度、拍子、調、リズム、アーティキュレーション、記号の意味など）を理解し、表現の工夫を考え、実践することができる。 ◇曲に込められた意図を感じ取り、フレーズ、音のつながりや歌詞を生かす基礎知識を身に着けたうえで、どのように表現するかの思いや意図をもって工夫することができ、具体的に述べるすることができる。 評価方法：授業中の活動・まとめテスト1、3・学習プリント・実技テスト・授業テストなど
観点Ⅲ… 音楽表現の技能	
評価項目	◇ 創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ歌唱、器楽で表現できる ◇ 正しい姿勢で正しい音程、豊かな声量、豊かな表情で演奏できる。 ◇ 楽曲が持っている音楽的な特徴を生かして曲想豊かに表現できる。 ◇ 正しい音程感や豊かな音楽センスを持ち、自分のパートの旋律やリズム音程を歌やリコーダーで表現するだけでなく、他のパートとの関わり感じ、表現することができ、その意見を述べるすることができる（A） 評価方法：授業中の活動・まとめテスト1、3・学習プリント・実技テスト・実技チェックなど
観点Ⅳ… 鑑賞の能力	
評価項目	◇ 音楽の響き、楽器や声の特徴を理解して音楽表現の豊かさを感じ、その良さを具体的に述べるすることができる ◇ 音楽の特徴、その背景となる文化や歴史、また他の芸術と関連付けて理解し鑑賞できる。 ◇ 合唱など自分たちの演奏を正確に客観的に聴くことができその良さや課題点を挙げるができる。 評価方法：授業中の活動・まとめテスト1、3・学習プリント・夏課題など

2年 美術科

1. 学習のアドバイス

・美術科の授業で学習すること

- ① 美術に親しみ、表現する・作品を味わうという幅広い活動を通して、感性を豊かにし、自分らしい表現をすることの喜びを味わおう。
- ② 作品のよさを味わったり、文化について理解を深めたりすることによって、認め合う心を育てよう。
- ③ 美術に関する基本的知識・描き方・作り方を知り、制作に役立てよう。

それぞれの持っている力を、どれだけ真剣に取り組み、自分の力を伸ばせるか。どれだけ作品の良さに気づき、感じたこと考えたことを文章や言葉で表現できるか。美術では、その力を大切にしていきます。

・美術科の学習方法

予習	課題のための資料やアイデアを、実際の制作・作業を始める前に準備しておくことが大切です。身の回りのもので利用できそうなもの、参考になりそうなものを注意深く探し、アイデアを集めておくようにしましょう。
授業	教科書、資料集、ワークシート等を使って学習します。単元によってポスターカラーを使用する事もあります。
復習	作品や作者、表現方法などについて、教科書や資料集を見直し理解を深める。
テスト前	授業で学習したことを中心に、資料集、教科書、配布したプリント類などをきちんと確認しよう。
テスト後	問題用紙、解答用紙は保存しておき、間違えたところはきちんと理解できるようにしておこう。
その他	忘れ物をしないこと。 提出物は必ず期限を守って出すこと。

2. 観点別評価の各観点の意味と評価方法

観点Ⅰ…「美術への関心・意欲・態度」(主体的な学習への取り組み)	
評価項目	◇ワークシート ◇授業中の様子(発表含む) ◇宿題・提出物 ◇テスト 等
観点Ⅱ…「発想や構想の能力」(感性や想像力を働かせ、構成などを工夫し、表現の構想を練っているか)	
評価項目	◇ワークシート ◇アイデアスケッチ ◇テスト 等
観点Ⅲ…「創造的な技能」(材料や用具を生かし、制作の順序を考えるなどして創意工夫しているか)	
評価項目	◇作品 ◇ワークシート ◇アイデアスケッチ ◇テスト 等
観点Ⅳ…「鑑賞の能力」(造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取れるか)	
評価項目	◇鑑賞シート ◇ワークシート ◇テスト 等

2年 保健体育科

1. 学習のアドバイス

・保健体育科の授業で学習すること

保健では、「健康と環境」と「傷害の防止」という2つの単元を学びます。具体的には、自己の生活を安全に健康で過ごすために必要な、災害の時の対処法を知ったり、けがはどのような時に起こるのかを学んだりします。授業を終えて身に付けた知識を、普段の自分の生活に生かし、自分の生活や心身の状態をより良くしていきましょう。

体育では、さまざまな競技を通して、特性に触れ、自分に合ったスポーツを探していきましょう。また、運動することの心地よさを感じ、基本的な運動習慣を身に付けましょう。

・保健体育科の学習方法

予習	「新編 新しい保健体育」、「中学体育実技」の教科書を見ておく。
授業	男女別習で行い、グループ活動を通して、目標達成や課題解決を目指す。
復習	教科書、授業プリントを復習する。
テスト前	授業で行った内容を復習する。テスト前に配布されたプリントなども活用する。
テスト後	テスト問題で間違えたところを見直しし、理解する。
その他	

2. 観点別評価の各観点の意味と評価方法

観点Ⅰ…関心・意欲・態度（学習への取り組みの姿勢を評価します。）	
評価項目	◇提出物 ◇授業でのようす
観点Ⅱ…思考・判断・表現（課題について、まとめたり、説明したりする力を評価します。）	
評価項目	◇まとめテスト ◇レポート ◇授業のようす
観点Ⅲ…技能（基本的な動きや効率のよい動きを身につけられているかを評価します。）	
評価項目	◇実技テスト ◇授業でのようす
観点Ⅳ…知識・理解（重要語句の名前や意味、スポーツのルールなどを覚えられているかを評価します。）	
評価項目	◇まとめテスト

2年 技術・家庭科

1. 学習のアドバイス

・技術・家庭科の授業で学習すること

○生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術のかかわりについて理解を深め、
進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

○生活の自立と共生を目指す。

・技術・家庭科の学習方法

予習	日常の家庭の生活に興味を持つ。
授業	授業時間を大切にする。話を集中して聞く。指示に従い積極的に行動する。特に作業の際には、衛生、安全に気をつけて行動する。提出物、提出プリントは必ず名前を記入し、提出日・提出時間を守る。学習プリントには授業の話で大切なことをメモする。
復習	学習したことを家庭生活で生かす工夫をする。日常の家庭の仕事をすすんで行う。
テスト前	授業でのポイントを復習し、おぼえる必要のあるものを覚える。学習プリントを中心に学習する。
テスト後	問題用紙、解答用紙を保存し間違ったところを理解する。
その他	生活の中から課題を見つけ、学習したことなどを生かし、解決するというプロセスを繰り返してより快適な生活をつくっていく。

2. 観点別評価の各観点の意味と評価方法

観点Ⅰ…生活や技術への関心・意欲・態度	
評価項目	◇提出物 ◇実習の様子
観点Ⅱ…生活を工夫し創造する能力	
評価項目	◇まとめテスト ◇提出物
観点Ⅲ…生活の技術	
評価項目	◇まとめテスト ◇実習・作品
観点Ⅳ…生活の技術についての知識・理解	
評価項目	◇まとめテスト ◇小テスト

2年 英語科

1. 学習のアドバイス

・英語科の授業で学習すること

教科書や副読本、音楽やDVD等、様々な教材を通して、「読む」「聴く」「書く」「話す」4技能を総合的に学び、英語を用いて人と繋がることが出来る力を身に付ける。

・英語科の学習方法

予習	教科書・副読本を前もって自分で読んだ上で授業に臨む。
授業	授業中にたくさん読んで、たくさん書く。そこで覚えたものを授業でたくさん使ってみる。
復習	授業でしたことを「自分の手と頭で」もう一度繰り返す。単語と英文を読んで書いて覚える。
テスト前	授業でしたことを「自分の手と頭で」何度も繰り返す。単語と英文を読んで書いて覚える。
テスト後	間違った所を中心に「なぜ間違ったか」をハッキリさせ、何度も繰り返し解いて理解する。
その他	

2. 観点別評価の各観点の意味と評価方法

観点Ⅰ…	コミュニケーションへの関心・意欲・態度（授業中や家庭学習での頑張りを評価）	
評価項目	◇提出物（ノート・プリント・ファイル等）	◇授業中の取り組み姿勢
観点Ⅱ…	表現の能力（英語で自分が伝えたいことを話せる・書ける）	
評価項目	◇Speaking Test	◇Talk & Talk
観点Ⅲ…	理解の能力（英語の文章を読んだり、聞いたりして内容が理解できる）	
評価項目	◇まとめテスト	
観点Ⅳ…	知識・理解（単語・文法・語法など、英語の知識がある）	
評価項目	◇まとめテスト	◇単語テスト・小テスト

2年生学習内容一覧表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
国語	広がる学びへ		多様な視点から	言葉と生活向き合う	関わりの中で			いにしへの心を訪ねる	論点を捉えて	読書に親しむ	表現を見つめて							
社会	地理的分野				地理的分野				歴史的分野									
	日本のさまざまな地域 世界と比べた日本の地域的特色		日本の諸地域 九州地方 中国・四国地方 中部地方		日本の諸地域 関東地方 東北地方 北海道地方 近畿地方				身近な地域の調査		「近世の日本」～中世から近世へ 江戸幕府の成立と東アジア 産業の発達と元禄文化 幕府政治の改革と農村の変化～		「近代の日本と世界」「日本の近現代」～欧米の発展とアジアの植民地化 近世から近代へ 近代国家へのあゆみ 立憲国家の成立 日清・日露の戦争と東アジアの動き 近代日本の社会と文化～					
数学	式の計算		連立方程式	1次関数	図形の調べ方				図形の性質と証明	図形の性質と証明		確率						
理科	物質の成り立ち		いろいろな化学変化	化学変化と物質の質量	化学変化と熱の出入り	細胞のつくりと働き	生命を維持するはたらき	行動のしくみ	動物のなかま	生物の進化	電流と回路	電流と磁界	気象観測	大気中の水蒸気の変化	前線の通過と天気の変化	日本の気象		
音楽	曲想を理解して表現を工夫して歌おう		声部の重なりを理解して表現を工夫しよう		言葉と旋律の関係を大切にし、歌唱表現を工夫しよう		旋律の生かした合唱表現を工夫しよう		曲のしくみを理解して名曲を理解しよう		リズム創作をしてみよう		速度や強弱の変化を生かし、整かな表現を工夫しよう		歌詞が表わす情景や曲想を味わいながら表現を工夫しよう		舞台芸術の魅力を味わおう	合唱の良さを味わって生体の響きに調和させて歌おう
美術	空想の世界を旅するシュルレアリスム 鑑賞 光の魔術師エミール・ガレ		プッシュステンドラン 鑑賞 鳥獣人物戯画		プッシュステンドラン 鑑賞 ゲルニカ		お菓子のパッケージデザインを考える 鑑賞 ジャポニスム		お菓子のパッケージデザインを考える 鑑賞 ジャポニスム		お菓子のパッケージデザインを考える 鑑賞 ジャポニスム		お菓子のパッケージデザインを考える 鑑賞 ジャポニスム		お菓子のパッケージデザインを考える 鑑賞 ジャポニスム		お菓子のパッケージデザインを考える 鑑賞 ジャポニスム	
保健 体育(男)	健康と環境				傷害の防止				傷害の防止				傷害の防止					
体育(女)	体づくり運動 ソフトボール		バレーボール バレーボール		水泳 水泳		陸上競技・器械運動 体づくり運動 陸上競技 卓球		卓球 ハンドボール 器械運動		器械運動 陸上競技		ソフトボール バスケットボール		サッカー サッカー		サッカー	
家庭	衣生活と自立				消費生活と環境				消費生活と環境				消費生活と環境					
技術	発電		電気と安全		電気回路		京水菜の栽培				センサライト付き写真立ての製作				センサライト付き写真立ての製作			
英語	unit0 daily scene1	unit1 daily scene2	unit2 daily scene3 presentation1	unit3 daily scene4 presentation1	unit4 daily scene5	unit5 daily scene6	unit6 daily scene7	unit7 daily scene8	unit8 daily scene9	unit9 daily scene10	unit10 daily scene11	unit11 daily scene12	unit12 daily scene13	unit13 daily scene14	unit14 daily scene15	unit15 daily scene16	unit16 daily scene17	unit17 daily scene18